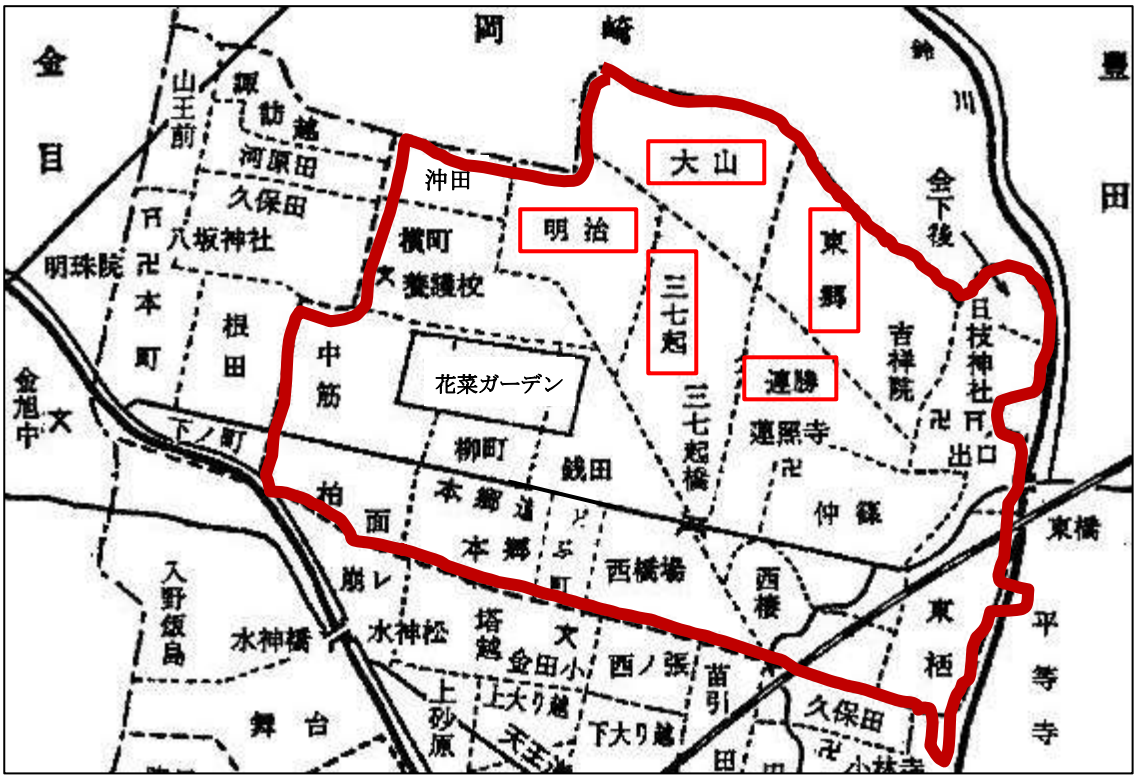
寺田縄地域の字名　　（２０２１．１）

現在の字名です



寺田縄境界線　　（井出栄二「平塚の地誌」昭和６０年　一部改）

図中の「連照寺　→　蓮昭寺」です。

寺田縄の字名の検討

寺田縄地域には、全国的に珍しい特殊・特異な「字（あざ）」名が付けられた土地があります。その名は「連勝（れんしょう）」、「三七起（みなき）」、「明治（めいじ）」、「東郷（とうごう）」、「大山（おおやま）」と呼びます。

この字名の意味、そして命名の時期について考えてみます。

①　字とは

この地が金田村であった時代、私の土地の地番は「神奈川県中郡金田村大字寺田縄字連勝」と表記されていました。金田村は、１９５６（昭和３１）年９月３０日に平塚市と合併し、村政から市政に変更された結果「神奈川県平塚市寺田縄」となりました。

「県」、「郡」、「村」、「大字」、「字」（小字）の標記は、ご存知のように行政の一単位として区画されていました。

標記上の「字」（小字）は、行政上の最小の単位として位置づけられています。「字」の名は、今日でも農業従事者の間で水田や畑地の場所（耕作地）を示す共通の用語として使われています。『沖田に水かかりが良くない』、『銭田の水は十分だ』などです。

「字」はもともと同一時期に開発された田畑などのひとまとまりを指す呼び名であった」（ブリタニカ国際百科事典）

「字」名の起源は、社会経済が農業生産物に依存していた時代、耕地を示す区画とし区分されていました。区画に付与された名称は、所有者の名前、耕地の位置、自然条件、時には自然災害の名前などに基づいて名づけられていました。

「農地のひとまとまり」は為政者にとって、年貢・税徴収の単位として重要な区分けとし、所有・私有が明確にされました。太閤検地や江戸時代の検地帳はともに土地の広さや耕作者を確定させ年貢徴収の基本とされました。明治になり地租改正の実施により、耕地は再編・整理され「地券」が発行され、所有権が確定されました。

②　寺田縄地域の特異な「字」名

１８８９（明治２２）年の市町村制の施行により、金田村が誕生し「神奈川県、中郡、金田村、大字寺田縄」（字連勝との地番は後に決定されました）という行政区分、私の地番が誕生しました。

「１６６５（寛文５）年の検地帳には、寺田縄に８１８筆の耕地が確認され、５２ヵ所の「字」の中にあった」（「わが住む里の江戸時代」金田村史をつくる会）。この５２ヵ所の「字」名は、今日では、１９ヵ所の字名と再編されています。

寺田縄に特有の「連勝」、「三七起」、「明治」、「東郷」、「大山」というこの５か所の字名を見る限り、自然条件や方角等々による由来とは考えられません。この名称から、「三七起」、「連勝」は歴史的な事実を表し、「明治」は時代を、「東郷」、「大山」は人名から名づけられました。

「明治」は、明治時代を「三七起」は、「３７に起こる」。意味は明治３７年に起こった日露戦争を指しています。１９０４（明治３７）年２月１０日　日本はロシア（露西亜）に宣戦を布告し戦争になりました。「連勝」は、戦闘が勝利を続け、連戦連勝を意味します。「東郷平八郎」は連合艦隊の司令長官。「大山巌」は、元帥、満州軍総司令官として戦績をあげています。

これらの「字」名は、日露戦争に因み旧来の「字」名に代え、意図的に命名されたと窺えます。

③　「字」名、命名の時期

この字名はいつ頃命名されたのでしょうか。寛文の検地帳には、５２ヵ所の字を数えることができましたが、現在は、前述の５字を含め１９ヵ所に減少しています。日露戦争が展開された明治期に字名の統廃合が行われ、この数になりました。

５つの「字」名の改変は、寺田縄地区で明治３７年に実施された耕地整理との関係が見出されます。

命名の時期を考えるために、耕地整理実施に関する文献を見てみます。

●　昭和２６年編　金田村村政要覧　金田村役場　昭和２６年に「耕地整理は明治３７年及大正１５年の２回に渉り実施いたし、現在は村内に１区域（１町６反）を余すのみにて全部完成するを見ている」と記されます。

○　寺田縄地区の第１回目の耕地整理は明治３７年から実施されています。耕地整理が行われた明治３７年は、日露戦争の宣戦布告の年代と符合します。

●　平塚市民俗調査報告書４　　金目・金田　１９８４　平塚市博物館

寺田縄地域の「耕地整理は早く、明治３７年に１回目が行われた。通常、旧整理といわれる耕地整理で、オオハイスイ（古川排水路）の北側が行われた。寺田縄の「三七起」「連勝」「東郷」「大山」「明治」という小字名はこの整理にちなむ名である」と記されます。

○　明治３７年、第１回目の耕地整理の「オオハイスイ（古川排水路）の北側」地域が行われました。「連勝」以下の字名と位置的に符合します。耕地整理と共にこの地に存在した字の統廃合が行われ、旧の字名に代わって５か所が命名されたと考えることができます。

●　中郡金田村経済更生計画書　　（昭和１１年　平塚市史資料叢書１）

耕地整理の概況

寺田縄耕地整理地区　　大字寺田縄

施行年度　明治３８年　　完成年度　大正３年

○　耕地整理は、明治３８年に事業が着手されたと読み取れます。

● 『金田村誌』(明治４４年・金田小学校）に記され、現在使われていない字名は、「曲田、彼岸田、穴島田、主計田、扇田、野添、北大縄前、沖埋、前埋、宮脇、椙木、蓮昭寺前」の１２ヶ所が記されています。

○ １９１１（明治４４）年時点の資料です。寺田縄を特徴づける５ヵ所の字名は記されていません。これらの字名が、後に、「三七起」、「連勝」、「明治」、「大山」、「東郷」という「日露戦争に因む字名」に統廃合されたと考えられます。

＜結語＞

「経済更生計画書」によると、耕地整理が完成したのは１９１４（大正３）年です。１９０４(明治３７)年の着手以来１０余年間にわたる地域にとっての一大事業でした。

長年にわたる耕地整理の事業を展開する過程の中で、日露戦争に因む新たな「字」名が検討され、決められたと考えられます。

「字」名は、明治３７年に命名されたのではなく、大正３年の耕地整理の完成をもって確定されました。「連勝」という「字」名は日露戦争の戦況を反映しており、開戦期の明治３７年と同時に命名されることはないと思われます。

「連勝」、「三七起」、「明治」、「大山」、「東郷」当時の寺田縄の人々にとって、日露戦争の勝利を記念し、勇んで付けられた「字」名と思われます。